**リンダウ・ノーベル賞受賞者会議派遣事業
第74回会議参加者(8名)アンケート 集計結果**

1. 本事業をどのような経緯で知りましたか。(複数回答可)

JSPSのHP	2	
JSPSのメールマガジン(JSPS Monthly)	2	
JSPSからのメールでの案内	3	
所属機関からの案内	1	
所属学会のHP、メールマガジン	0	
過去のリンダウ会議参加者からの案内	2	
日本人研究者からの案内	1	
外国人研究者からの案内	1	
その他	3	

2-1. リンダウ・ノーベル賞受賞者会への参加は有益でしたか。

はい	8	
いいえ	0	

2-2. 上記のとおり回答した理由は何ですか。

ノーベル賞受賞者と直接議論できること自体、非常に貴重で刺激的な経験ですが、それ以上に、世界中から選抜された優秀な同世代の若手研究者と深く交流できたことが、非常に有益であったと感じています。研究分野の近い参加者とは具体的な話ができて、共同研究の可能性を探る場としても大きな意味がありました。また、分野を超えた視点に触れることで、自身の研究に新たな切り口や応用のヒントを得る機会にもなりました。このような経験は、単なる知識の獲得にとどまらず、今後の研究をより広い視野で展開していくための糧となるものと実感しています。

30名を超えるノーベル賞受賞者及び600名を超える世界中の若手研究者との研究交流を行う大変貴重な機会で、自分自身の研究に対するモチベーション向上につながったからです。

ノーベル賞受賞者から研究哲学を学べたこと、国内外の若手研究者たちとコネクションを作れたこと、自分の研究に対するモチベーションを高められたこと。

国内外問わず化学の研究に従事している優秀な若手研究者と交流できたから。”What are you working on?”とお互いの研究を紹介するところから始まり、それぞれの国での研究環境や悩みを共有できてとても楽しかった。私の専門は化学ではなく生命科学であるが、化学者と交流することで大きく視野を広げることができた。また、より研究分野の近い人とはキャリアの相談など具体的なアドバイスをもらったのもよかった。

普段の研究生活では交流しない日本人およびデンマークの中国人研究者と交流が持てたため。

雲の上の存在のように感じていたノーベル賞受賞者と直接お話し、彼らの研究に対する姿勢や考え方に触れることができたことは、今後の自身の研究活動にとって大きな糧となったように思います。

ノーベル賞受賞者や若手研究者との交流、最新研究議題についての学び、異文化体験など、非常に有意義でした。

3. リンダウ・ノーベル賞受賞者会議に参加して、どのような影響がありましたか。(複数回答可)

学術的な視野が広がった。	7	
通常の国際学会では得られないような助言を受けることができた。	7	
国際的な場で研究活動を行いたい、という希望が強まった。	7	
将来、大学や学会等でリーダーとして活躍したい、という希望が強まった。	5	
共同研究等の持続的な研究交流のパートナーが見つかった。	2	
自身を研究者として受け入れる研究室が見つかった。	0	
webやメールではなく、顔を合わせた議論や交流の重要性を認識した。	5	

4. 他の日本人若手研究者にも本事業への参加を勧めたいと思いますか。

はい	8	
いいえ	0	

5-1. 本事業への申請を検討するにあたり、何か懸念事項がありましたか。(複数回答可)

1週間という会期が長い	0	
博士論文の提出予定年度にあたる	1	
指導教員や直属の上司が本会議参加に協力的でない	0	
ラボメイトや同僚が本会議参加に協力的でない	0	
英語能力に自信がない	2	
研究業績に自信がない	1	
本会議の知名度が低い	0	
採用されるまでの競争率が高そう	4	
採用結果が判明する時期が遅い	2	
その他	2	

5-2. 上記の懸念事項をどのように乗り越えて申請を決意したかご記入ください。

申請することに意義があると自分を説得させて、申し込みを行なった。

特に大きな懸念はありませんでした。申請時の指導教員、および、現在の勤務先の上司がリンダウ会議の意義をよく理解されており、会議への参加にも非常に協力的であったため、懸念事項はありませんでした。

申請書を出してみなければ始まらないと自分を奮い立たせ、申請手続きを行いました。採用結果の時期について、私自身は申請当時博士課程3年で来年度のポストが決まっていない状態での申請でしたが、まだわからない未来だからこそ挑戦してみようと強く思い申請に至りました。

・博士論文の提出予定年度については所属機関に問い合わせ問題がないことを確認した。
 ・JSPSの他の事業に採択経験がなく、化学分野が主たる専門でない私が選考を通過できる自信は全くなかったが、書類を出さないことには採択されないのを悩むことを辞めて申請した。
 ・74回の会議は採択通知が2025年3月18日に届いた。確かに届くのが遅かったのでかなり心配であったが、基本的には旅程や会議期間中の動きはこちらで準備することがないので大きな問題はなかった。どのようなノーベル賞受賞者が来るかはその後判明するので運であるが、結果的に興味の近い分野の受賞者が参加されたのでよかった。

英語能力は日々維持向上させることに異論はないが、それでもドイツへの留学経験で今でも交流する友達を得た経験から、たくさんの英語を知っているや読み書き話し聞いただけが、コミュニケーションに必要な能力ではないと感じていたため。

ある意味、開き直りました。これも英語力を伸ばす良い機会だ、と自分に言い聞かせて臨みました。実際、会議中はもちろんのこと、事前準備の段階からリンダウ会議の存在が良い意味でプレッシャーとなり語学研鑽に前向きに取り組むきっかけになったように思います。

採用の競争率に懸念はあったが、出してみないと結果はわからないので挑戦した。

6. 日本人参加者同士の交流の機会は持てましたか。

はい	8	
いいえ	0	